

# 「防災講演会」が開催されました

## 地震対策＝家具の転倒防止が重要

1月20日（土）午後1時30分から綾瀬市オーエンス文化会館において綾瀬市自治会連絡協議会主催（共催＝綾瀬市）の「綾瀬市防災フェア」が開催されました。

■「語り部による講演」の講師は仙台市在住、防災士の山田修生氏。講演では、東日本大震災の実体験から自然災害の怖さ、自助・共助の視点での教訓のお話がありました。

■講師が強調されたのは、それぞれが自助（他人の助けを借りずにけがを回避し、また、命を守る）ができなければ、共助（地域で周囲の皆さんと助け合うこと）などできないということです。

■1981年の新耐震基準や2000年の現行基準で建てられた家屋は、地盤状況の変化（液状化など）、崖崩れ、電柱の倒壊などによる被害を受けなければ、一定程度地震に耐えるものとなっているとのこと。しかし、建物が倒壊しなくても、倒れて



てきた家具や飛んできた物でけがを負ってしまう場合が多く、自分が助けを求める立場になっては共助はできません。家族や周りの人を守り、助けるには、まず、自助することが前提だそうです。



そのためには、家具等の転倒防止・飛散防止対策をし、寝室には、腰の高さ以上の家具を置かないようにしてもらいたいとのことでした。

■立ってられない地震では、人は動けず、何もできないと認識してほしい。そこに家具が倒れ、大けが、最悪の場合は圧死の事態になると強調されました。【裏面のイラスト参照】

## 「防災ハザードマップ」が全戸配付されます

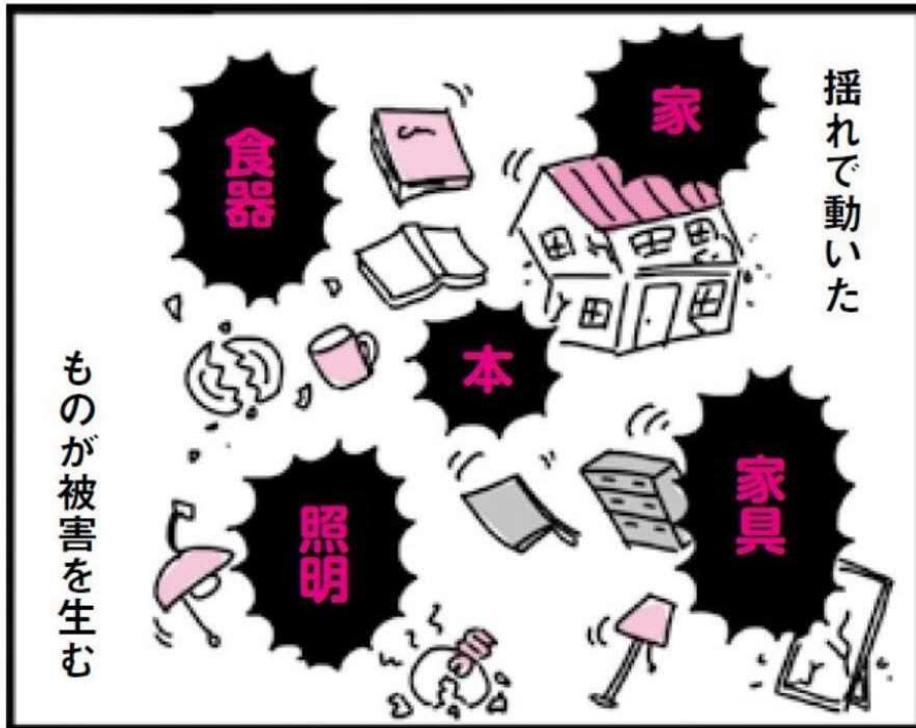
能登半島地震の発生の後、市危機管理課に「防災ハザードマップを持っていない世帯に配付したい」と問い合わせたところ、「3月中に新版を全戸配付の予定です」とのことでした。

「応急手当」「日常の備え」「市の制度」など、参考資料も現行版と同様に掲載されていると思います。新版の「防災ハザードマップ」が配付されたら、ご家族でお読みください。そして、自宅での備えをお願いします。

## 「黄色いハンカチ」の毎月の掲示訓練を！

「黄色いハンカチ」の掲示は、「我が家は大丈夫！」の目印です（掲示のない家の安否・安全確認に回れる一救助活動の円滑化）。

小園自治会では、毎月、第一日曜日の午前8時から9時に「黄色いハンカチ」の自宅（玄関、門扉など）での掲示訓練をしています。ご協力をお願いします。



## 大地震への備え



住宅の耐震化



家具の固定



家族での話し合い  
(連絡方法など)



非常持出袋  
の準備



食料や水、生活  
必需品の備蓄



停電、断水  
などへの備え



訓練に参加



保険の加入



避難経路の確認